

(報告事項)

第1391回経営委員会議案

2021年12月21日

新 和歌山放送会館の建設基本計画について

新 和歌山放送会館の整備については、現放送会館の場所が市内でも限られた非浸水域にあるなど最適な立地にあることから、現放送会館の隣地を一定期間借用し仮放送会館を確保して、現在地で建替える検討を進めてきた。このたび、建設基本計画がまとまったので、会館建設に向けて着手することとしたい。

新 和歌山放送会館の建設基本計画

1. 整備方針

現和歌山放送会館は、築53年を過ぎて、漏水などの設備老朽化が著しい状況です。

和歌山局は、県や市、地元不動産会社などにも協力を求め移転候補地を探してきましたが、和歌山市内は、洪水や津波の浸水域が広く、景観条例などの障壁もあって、適地を見つけることができませんでした。

一方、現放送会館の場所は、市内でも限られた非浸水域にあり、県庁など主要官庁にも近く、公共メディアとしての役割を果たしていくうえで最適な立地にあります。このため、現在地での建て替えを実施することとし、現会館敷地と隣地を借用し、仮放送会館を建設して、BCP重要拠点としての役目を果たせる新放送会館の建設を目指します。

2. 基本コンセプト

(1) 現在地での建て替え

安定的な事業継続に最適な立地である現放送会館の場所に、新放送会館を建設します。このため、現放送会館の隣地を借り上げて、事業継続に必要な機能を全て収容できる仮放送会館を建設し、新放送会館のカットオーバーまでの3年間使用します。

(2) BCP重要拠点としての放送会館

和歌山県は、紀伊半島豪雨など風水害の被害をたびたび受けてきたほか、想定される南海トラフ巨大地震では、大津波などによる甚大な被害が予想されています。和歌山放送局には、「命と暮らしを守る」防災・減災報道の拠点として、堅牢で機能的な放送会館が求められます。また、和歌山放送局は、地震や津波の状況によっては隣県からの応援が困難になるおそれがあるうえ、広大な県南部に点在する取材拠点への支援を担うために、BCP（事業継続）の観点から、一定期間、自立的に機能する強靱な会館の整備を目指します。

(3) 「コンパクト」と「汎用性」を両立した放送会館

「放送会館建設の基本方針」に沿って、コンパクトでありながら、地域の情報発信強化にもつながり、地域性や立地など置かれた条件下で、放送局の役割を果たすために適切な機能・規模を追求します。また、仮放送会館とも必要な機能を絞り込み、会館設備・放送設備に関して資産量削減を目指しつつ、近畿

ブロックにおけるサービスの在り方や、今後の組織改正もふまえて、柔軟な運用が可能なスペースも整備します。

(4) 新たな「視聴者とのタッチポイント」の開発

和歌山県は南北に長い地形となっており、放送会館を建設する和歌山市は、大阪府に隣接する県北部にあります。このため、放送会館は視聴者とのタッチポイントとなる機能を絞り込み、県南部も含めた視聴者に対し、あらゆる機会、場所を活用した新たなタッチポイントの手法を開発し、NHKに対する理解促進を図ります。

(5) 環境にやさしい放送会館

建設用地は、和歌山城・行政機関・美術館など公共施設や学校、住宅が混在した地域にあるため、周辺環境に配慮したデザインとします。また、建物本体や設備システムの導入に当たっては、温室効果ガスの排出削減に向け、積極的に取り組んでいきます。

3. 新放送会館の概要（現在地での建替え）

(1) 建物・用地の概要

- ・所在地 和歌山市吹上2-3-47
- ・用途地域 商業地域
- ・防火地域 準防火地域
- ・建蔽率 80%
- ・容積率 400%
- ・災害リスク 津波による浸水想定区域外
河川氾濫による浸水想定区域外
- ・敷地面積 1,994.08㎡(603.20坪)
- ・延床面積 3,072.00㎡
- ・階数 地上5階程度
- ・建設方式 単独建設

<参考：仮放送会館>

- ・敷地面積 2,288.86㎡
- ・延床面積 1,660㎡(692.38坪)
- ・階数 地上2階程度
- ・建設方式 単独建設

※機能別面積概要

<仮放送会館>

機能	面積(m ²)	主な内訳・備考
スタジオ関係	80	ニューススタジオ、R/FM
放送センター	735	編集・アートスペース、運行・ラック室等、 職員・スタッフスペース、ポスプロ、汎用スペース、 中継準備室・取材機材室、PD 編集室、資料情報室、 プロジェクト室
事務室	175	局長室、企画総務、営業、会議・応接室
厚生関係室	20	休養室・ロッカー男女・シャワー室
諸室	220	車両、倉庫、備蓄、防災
玄関	0	ハートプラザ機能なし
建築設備室	100	冷暖房設備室、受配電設備室
共用スペース	330	廊下、トイレ、エレベータなど(全体の25～30%程度)
計	1,660	

<新放送会館>

機能	現会館	新会館	主な内訳・備考
スタジオ関係	402	205	ニューススタジオ、R/FM、出控・倉庫
放送センター	912	847	編集・アートスペース、運行・ラック室等、 職員・スタッフスペース、ポスプロ、 汎用スペース、中継準備室等、無線中継 室、資料情報室、プロジェクト室
事務室	455	165	局長室、企画総務、営業、会議・応接室
厚生関係室	160	70	休養室・ロッカー男女・リフレッシュ、 健康管理室
諸室	334	335	車両、倉庫、備蓄、防災、清掃、組合
玄関	255	80	ハートプラザ、オープンスタジオスペース
建築設備室	529	660	冷暖房設備室、受配電設備室、自家発
共用スペース	916	710	廊下、トイレ、エレベータなど (全体の25～30%程度)
計	3,963	3,072	

(2) 整備スケジュール (予定)

年度	事項
2021年度	建設基本計画策定
2022年度	基本設計：各室レイアウトやデザイン、構造計算等 実施設計：基本設計図に基づき詳細な仕様を図面化
2023年度	土地借用開始 着工
～	<ul style="list-style-type: none"> （ 土工事 建物躯体、内装工事 電気設備・空調給排水設備工事 自家発・受配電設備工事 ） 外構工事
2027年度	建物（完成） 放送設備工事 運用開始
2028年度	土地借用終了

(3) 経費概算

建 物	24.2億円程度 (設計・監理料、現会館解体費込み)
放送設備	8.8億円程度 (ニュース送出設備等は現会館または他会館のものを 利用)

<参考：仮放送会館>

土 地	約2,500万円 (年間賃料)
建 物	9.5億円程度 (設計・監理料、解体費込み)
放送設備	12.6億円程度 (放送設備については可能な限りその後整備予定の 新会館で転用)

(4) 現放送会館位置図



(5) 仮放送会館予定地（緑部分）

